

インタビュー

NPO法人 森林再生ネットワーク北海道

代表 陣内 雄さん



森づくりはみんなの手で一緒にやるのが大切

——まずは、「もりねっと」の紹介からお願いします。

陣内「もりねっと」は、森林学の大学教授や林業実務経験者、森が好きな

市民などが「もっと森を知ってほしい」「林業のあり方を考えてみよう」と2006年12月に設立しました。

森は身近で、すぐそばにあるのに意外に知られていません。例えば、森には国有林、道有林、市町村林、そして私有林と必ず所有者がいますが、その管理運営はそれぞれが行っており、木の切り出し、搬出、加工、流通もまたそれぞれ独自のルートがあります。本州方面では私有林が大半を占め、森林組合が地域の東

国国有林が多くを占める北海道の場合は地域を束ねる機関がありません。

森は土や空気、川でつながっています。切りすぎで痛んだ天然木、手入れ不足の人工林、放置された里山など、森を手入れし資源を活用する「循環の仕組み」をつくるには国や道、市町村、民間

の連携が必要です。私たちは森を管理する方たちももっとお互いを知り、一緒にできることは一緒にやる、そんなきつかけづくりやお手伝いができればいいなと考えており、それを一番の目的に

掲げています。

もっと言うと、山から出た水は川となり下流に流れ、それをみんなが使っています。森で浄化された空気も吸っています。漁業にも大きな影響を及ぼします。森づくりは地域の人、下流域の人、国民全体に関係のあることなのです。

市民のみなさんが林業が環境保全に役立つこともあることを理解し、応援してくれたら、環境税などの導入もスムーズに実施できるでしょう。森は所有者のものでも、ある一面ではみんなのもの

「NPO法人森林再生ネットワーク北海道」(略称・もりねっと北海道、以下、もりねっとという)が、09年度から突哨山の指定管理者となった。森の魅力と現状を知ってもらい、資源を活かす循環の仕組みをつくる活動を行っているという同法人代表の陣内雄(じんのうち・たけし)さんに、もりねっとの活動内容や、突哨山の管理運営方針などについて聞いた。(聞き手・本誌北牧和彦記者)

事務局が置かれている陣内さんの住宅の前で。写真右が陣内代表、左が清水省吾さん



子供たちに森の大切さを伝えるため
自然体験講座を開催している

「もりねつと」が目指すのは 「森を活かし、人をつなぐ」こと

でもあるのです。そんな「お互い様」の姿が未来の林業、森づくりに必要なのではないかと思うのです。

もちろん、すぐにそんな仕組みができるとは思いません。今私たちにできることを少しずつ重ねながら、幅広い層のみな

さんと話し合い、時間をかけて目標に近づくしかないと思います。

**森を守ることを
きちんと言えたい**

—— 具体的な活動内容を
教えてください。

陣内 活動のキーワードは森を「活かす」、人を「つなぐ」です。

森はきちんと手入れすればずっと恵みをもたらしてくれる「持続可能な生態系」です。私たちは「お裾分けをしてみよう」という気持ちで、資源を活用する仕組みを地域の皆さんに提案しています。

具体的には「森の活用

相談」として、小規模な山林をもち「いい森にしたい」「生き物を大事にしたい」「木材も丁寧に収穫したい」という方たちから相談をお受けしています。森を調査し、樹木の歴史や成長度、動植物の構成、土・水・風・日射しなどから森の成長力を活かす手入れ方法を提案。公的な補助事業が可能な場合は、地元の森林組合と協力しています。

そのほか、「薪クラブ」では、薪ストーブのある暮らしがしたいという方たちに薪を割って乾燥させる場所を提供したり、チェーンソーで木を切る体験講習も開いています。

—— 「つなぐ」活動と

は？

陣内 いま小学生の子どもたちは、あと10年もしたら、社会人になるでしょう。感受性の高いときに、森を守ることと、林業のことをきちんと伝えることはとても大切です。私たちは森大切にしながら、恵みをいただき、大切に使い続けること、そういう社会をみんなで作っていくことを伝える目的で「森の体験講座」や各種セミナーを随時開催しています。

小学生をはじめ、様々な方々から、様々な内容の講座、セミナーを開いてほしいという要望に森林研究や林業の実務経験

環状通り眼科

コンタクトレンズ併設 院長 秋葉 純 (眼科専門医)

永山4条5丁目(環状線沿い) ☎(0166)46-4060

(パソコン) <http://www.kanjo-ganka.com/>



診療時間
■月・火・水・金 / 9:00~12:00
14:00~18:00
■土 / 9:00~15:00
(昼休みなし)
■木・日・祝日 / 休診



をしたスタッフが「森を知る」案内役を務めています。

東鷹栖に「グリーンサンタの森」を育てているそうですね。

陣内 はい。子供たちに緑あふれる未来を贈るために活動している社団法人グリーンサンタ基金と協力し、子供たちの力を借りて広葉樹林の育成をめざし「森遊び」のフィールドを作っています。

突哨山の管理運営は市民の手で行う

旭川市から委託を受け09年度から突哨山の管理を行うことになりましたね。

陣内 突哨山は国内最大級のカタクリ群生地として知られ、ゴルフ場建設計画が出たことから保全の声があがり、現在は旭川市と比布町が購入し公園になっています。

突哨山はこれまで財団法人旭川市緑地協会が非公募で指定管理者となっていました。

今年度から初めて公募となり、もりねっとが管理運営することになりました。今後、どのように管理運営していく計画でしょうか。

陣内 公有の緑地を市民が管理する体制ができたといい点で画期的だと思います。

市民と言っても不特定多数なので、まずは市民や専門家をつくる「突哨山運営協議会」が管理運営方針を決め、それを市民に情報発信するとともに旭川市に提言し、NPOが実施するという形です。

当面は、動植物の生態・分布調査や歩道の維持管理、森の手入れを行うほか、市民向けの自然観察会や体験講座などのイベントも多く開催していきたいと思っています。

「もりねっと」のメンバー構成を教えてください。

陣内 代表兼事務局を私が務め、もう一人専従スタッフとして清水省吾という旭川大学出身で出羽寛教授の教え子の青年がいます。

そのほか理事として柿澤宏昭（北海道大学教授・森林政策・札幌）、細田直志（森林インストラクター・下川町）の2人。

また、運営委員として、甲賀廣代（コクヨファニチャー株式会社・神奈川県）、辻井達一（北海道環境財団理事長・札幌）、尚和真理恵（下川町）、寺島一男（大雪と石狩の自然を守る会代表・旭川）、速水亨（社団法人日本林業経営者協会会長・三重県）、前田和司（北海道教育大学助教・環境教育・岩見沢）、吉田ユミ子（旭川）の7人

が参加し、中心的に活動しています。

今は、まず地元を根を生やす段階です。旭川周辺で地道に活動し、みなさんに認めてもらうことが第一です。いろいろな活動がひとつにつながるように頑張りたいと思います。

今日は、お忙しいなかありがとうございます。

「もりねっと」ではNPO活動に参加する「森のサポーター会員」を募集している。年会費は3000円で、イベント・活動を知らせる通信の配布や森の恵みのプレゼントがある。

詳しくは、「もりねっと」（旭川市神居町神華155-7） ☎0166-69-0066まで。
<http://www.morinet-h.org>



医療法人社団 健幸会
**高桑整形外科
永山クリニック**
院長 高桑 昌幸
(日本整形外科学会認定専門医)
リウマチ相談・スポーツ相談・骨粗鬆症相談・乳児股関節エコー健診

- 整形外科
- (運動器)リハビリテーション科
- リウマチ科

診療時間
平日 / 9:00~12:30
 14:00~18:00
水・土曜日 / 9:00~12:30
日曜・祝日 / 休診
※リハビリは昼休みも行います。

旭川市 旭川駅 徒歩10分
高桑整形外科 永山クリニック
旭川市 旭川駅 徒歩10分
旭川市 旭川駅 徒歩10分

旭川市永山3条11丁目(国道39号線沿) TEL(0166)48-5277 FAX(0166)48-6277